

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63 アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン2種類♪

AC ブルイイ 2016 (赤)

アレックスの初リリースワイン！彼曰く、醸造はコート・ド・ブルイイとほぼ変わらないが、ブルイイのブドウの方がマセラシオンの抽出スピードが少し早かったことから、タンニンをやわらげるため 50%樽で熟成させている！出来立てを飲んだ時は、コート・ド・ブルイイよりもワインが硬く、粗野でタンニンも目立っていたが、瓶詰め1年を経た今は、驚くほどワインが柔らかく滑らかになっている！明るい果実感とほんのりビターなミネラル感のバランスが良く、喉越しもしなやか♪開けた翌日もさらに美味しくなっているのが凄い！

AC コート・ド・ブルイイ 2016 (赤)

アレックスの初リリースワイン！デビュー作にして瞬く間に彼の名声をとどろかせた俊逸ワイン！フレッシュな果実味を生かすために樽は使わず、セメントタンクのみで仕込んだ。アレックス曰く、砂地の土壌のおかげでピエール・ブルー (Pierre Bleue) (青い石と呼ばれる斑岩質の火山岩土壌) よりも果実味がエレガントに仕上がるのだそうだ！口に入れたとたん柔らかくスルリと、滑るような艶やかな果実味とシャクヤクやグロゼイユの華やかな風味が広がり、あまりの美味しさについついワインが喉をすり抜けて行く。こんなワインを1年目からつくり上げてしまうアレックスはとんでもないといしか言いようがない！

ミレジム情報 当主アレックス・フォワヤールのコメント

2016年は、暖冬からスタートしたが、3月から天候が一転、気温の上がる雨の多い日が6月いっぱいまで続いた。そのため、春はミルデュー対策のためボルドー液の散布はノンストップだった。加えて、5月28日と6月24日にフルーリーからムーランヴァン抜けるように猛烈な勢いで雹が降ったが、幸いブルイイ、コート・ド・ブルイイには届かなかった。夏に入っても雨が1日おきに降るような不安定な天気続き、晴れている時は30度を超え、雨が降っている時は20度を下回るような極端な温度差があり、繁殖の好条件が整ったミルデューが再び猛威を振るった。だが、8月中旬から一転、天気が安定し、再び暑い日差しが戻ってきた。9月も総じて天気に恵まれたのに加え、収穫直前に適度な雨も降ってくれたおかげで、果汁をたっぷり含んだブドウを取り込むことができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① コート・ド・ブルイイの丘

これはアレックスのコート・ド・ブルイイの畑の写真。(写真①) 後ろに見えるのがブルイイの丘で標高は484mある。ブルイイの丘は大昔火山が隆起してできたもので、アレックスの畑はもともと平地だったところが、ちょうどブルイイの丘の隆起に押し出されるようにできた裾野に位置する。そのため、同じコート・ド・ブルイイでもブルイイの丘に多く含まれるピエール・ブルーと呼ばれる斑岩質の火山岩はほとんど含まれておらず、土壌構成は花崗岩が風化した砂地がベースだ。

そして、これは土壌をズームアップした写真。(写真②) ズームアップすると分かるが、花崗岩の砂地にシストの小石が混ざっている。アレックスが言うには、通常ピエール・ブルーを

多く含むコート・ド・ブルイイはミネラリーで骨格のある力強い味わいのワインが出来やすいのに対し、彼の砂地の畑はキャラクターが正反対で、果実味がみずみずしく繊細で早くから飲めるワインが出来やすいとのこと！

ちなみに、2016年に手に入れたこの畑は、除草剤こそ撒かれてはいなかったが、以前は全く土起こしがされていなく、地表も写真のようにふかふかではなく、コンクリートのよう



写真② ①の土壌をズームアップ

に固まっていたそうだ。彼曰く、当面は土壌に息吹を吹き込むために、土起こし作業に力を入れて行くそうだ。「1年目は、コート・ド・ブルイイもブルイイも手入れされていない畑を購入してすぐに仕込んだワインだから、飲みやすくてもまだ味わいに深みが伴っていないと個人的には思っている」と自

らのワインを手厳しく評価するアレックス。1年目で十分すぎるほど衝撃的なワインをつくった彼だが、これから畑に手を掛けて行くことで、更に美味しさが増していくことだろう。今後の成長が本当に楽しみでならない！

(2018.5.28. & 7.4 のドメーヌ突撃訪問より)